

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第4回 放射性廃棄物管理分科会 (F2SC) 議事録

1. 日時 平成12年10月5日(木) 13:30~17:20

2. 場所 (社) 日本原子力学会 会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 森山(主査), 小川(副主査), 藤原(幹事), 出光, 上田, 馬原, 佐々木, 武部, 本山, 山本, 油井, 吉田(12名)

(代理出席委員) 石井, 大野, 三倉(3名)

(欠席委員) 大江(1名)

(常時参加者) 増田(1名)

(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

F2SC4-1-1 第3回 放射性廃棄物管理分科会議事録(案)

F2SC4-1-2 第2回 放射性廃棄物管理分科会議事録(案)

F2SC4-2 標準委員会の活動状況について

F2SC4-3 標準委員会 専門部会運営通則

F2SC4-4 標準委員会規程・運営内規・専門部会運営通則の解説

F2SC4-5 標準作成手引き

F2SC4-6 標準原案の審議に関するガイドライン

F2SC4-7 目次(案)

F2SC4-8 参考資料一覧

参考資料

F2SC4-参考1 標準委員会等の開催予定と実績

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より、出席者の確認の結果、16名の委員中12名の委員と3名の代理委員の出席があり、決議に必要な委員数(11名以上)を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録の確認

前回議事録の確認を行い、コメントについて1週間を目途に事務局まで送付することとなった。(F2SC4-1-1) また、前々回議事録の確認を行い承認された。(F2SC4-1-2)

(3) 活動状況報告

事務局より標準委員会等の活動状況の報告並びに専門部会通則、標準作成手引き及び標準原案の審議に関するガイドラインの説明があり議論が行われた。主な意見を以下に示す。(F2SC4-2,3,4,5,6)

- ・ ガイドラインに基づく専門部会、標準委員会への中間報告を行うため、委員会、専門部会開催予定をある程度定めておく必要がある。
- ・ 次回原子燃料サイクル専門部会にて標準化の適用範囲、報告書の目次(案)を中心に検討状況報告を行う方向で調整を行いたい。

(4) 報告書について

藤原幹事より報告書目次(案)、付録解説目次(案)及び作成分担の説明があり、付録解説目次(案)に従い、担当委員より各項目の内容及びまとめ方について説明があり以下の議論が行われた。主な意見を以下に示す。

(F2SC4-7)

a-1. 標準化の社会的/学術的必要性について

- ・ 報告書全体を見ることにより記載内容は絞られてくると思われる。具体的な内容を検討し骨格が固まったところで委員全員で考えて行きたい。

b-1. 国内における分配係数に関する研究の現状について

- ・ 学術的な側面からのアプローチと実務的な側面からのアプローチがあるものの、定義としては、学術的なものとすべきであり、実務的なものはその応用として考える。
- ・ 適用例や学術的問題点等を解説、附属書等として記載し、そのエッセンスを標準化資料とする。

b-2. 国外における現状とOECD/NEAの動向について

- ・ OECD/NEAの動向を踏まえ、今後の検討に反映させることも重要である。

d. 分配係数への影響因子の把握のための検討について

- ・ 各項目は密接に関連することから、各項目で挙げている例題についても、前後章との関連を考えると共に、d章全体としての流れを見てまとめることが必要である。
- e. 分配係数の各種測定方法と問題点について
 - ・ 各種測定方法に関する問題点については、次章 f との関連に注意してまとめる。
- f. 分配係数の標準的な測定条件に関する検討について
 - ・ 標準化に必要な測定項目が挙げられており、問題点、疑問点等を出し合い、討議して行くことが必要である。それらの結果を受けて、標準とするか指針あるいは参考とするか検討する。
- g. データの処理方法、誤差等に関する検討について
 - ・ データの処理方法等、前章 f との関連を考えるとともに、誤差の取り扱いについてもわかりやすくまとめることが必要である。

(5) 今後の予定

第5回分科会を11月27日、28日、30日、12月1日の中から委員の都合を事務局にて確認の後、別途連絡することとした。

以上